

科学館改修等における P F I 手法の導入に係る検討結果について

1 経過

科学館は、平成 2 年 5 月の竣工から築 26 年が経過し、建物・展示物の老朽化及び展示内容の陳腐化が進行している。仙台市行財政改革プランに基づき、科学館改修等への P F I 手法の導入について検討するために平成 26 年度に内閣府の支援制度を活用して実施した調査において、V F M^{*}が 3.11%/275,025 千円との結果が得られたことから、P F I 手法の導入に向けた検討を進めてきた。

既存施設の改修を行う事業であるため、さらに詳細な施設の劣化状況調査とそれを踏まえた改修範囲の明確化が必要であることなどから、今年度、施設の劣化状況調査を行った上で改修基本計画を作成し、これを反映するとともに、他の算定条件についても見直しを行うなど、V F Mの精査を進めてきたところである。

※V F M Value For Money の略。ここでは、従来の方式で事業を実施した場合に公共が負担するコストの推計値と、P F I 手法を用いた場合に公共が負担するコストの推計値を比較することで検証される財政負担の削減率/削減額の意。

[平成 26 年度の P F I 手法導入可能性調査の概要]

(1) 想定した事業の内容

P F I 手法及び指定管理者制度を活用し、建物・設備の大規模改修工事、展示リニューアル、施設の維持管理・運営を民間事業者に包括的に委託する。ただし、科学館の現行業務のうち「学校教育業務」（科学館学習、児童生徒理科作品展など）については、引き続き市が実施する。

(2) 想定した事業スキーム

- ・ 事業方式 既存施設の改修 (Rehabilitate)、管理運営 (Operate) を行う PFI-RO 方式
- ・ 事業類型 指定管理者制度併用の混合型
- ・ 事業期間 20 年間 (改修工事期間を含む)

2 V F Mの精査結果

精査の結果、本市の P F I 手法導入の判断基準である V F Mが「3%以上かつ現在価値換算後 1 億円以上」を満たす結果は得られなかった。

[平成 26 年度 内閣府調査] V F M 3.11%/275,025 千円

[平成 28 年度 精査結果] V F M 2.53%/267,349 千円

〔VFMが変動した主な要因〕

施設の劣化状況調査を行った上で改めて改修基本計画を作成し、それを踏まえて中・長期的に必要な施設の修繕費用を見直したこと、直営分や民間事業者の人件費を見直したこと等により、結果的にVFMが減少することとなったもの。

3 今後の対応

VFMが市の基準値を満たさなかったため、本事業へのPFI手法導入は見送る。

今後の施設の改修工事，展示リニューアル及び指定管理者制度の導入については，関係部局と協議しながら検討を進めていく。